

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム・ファミリア

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100138		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	グループホーム・ファミリア		
所在地	岩手県釜石市甲子町第15地割86番地5 カサ・デ・ファミリア3F		
自己評価作成日	平成 29 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391100138-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391100138-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同じ建物1・2階に有料老人ホームが併設しており、職員は兼任している。入居者も1～3階を歩き来し、合同で行事等活動を行っている。また系列施設にも外出し、レクリエーション活動などを行っている。職員の資質向上の為、外部研修への参加等にも力を入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームファミリア(2ユニット)は、カサ・デ・ファミリア(3階建て有料老人ホーム)の3階部分を改装し、今年4月に事業を開始した。現在、1ユニットの稼働で6名が入居している。ホールや居室は明るい色調で、窓から四季を楽しむことができる。利用者は、階下の有料老人ホームからの転居者が多く、利用者同士、職員とも顔なじみで、安心して生活している。1、2階の利用者と行き来し合同で行事を行っており、馴染みの関係を継続している。また、系列の事業所を訪問してレクリエーション活動を一緒に行っている。事業所が、市の避難施設に指定されており、町内の防災訓練にも参加協力している。また、駐車場が町内の夏祭りの会場として利用され、地域との交流が積極的に行なわれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様の安らぎと暮らしを支える」を事業所理念とし、スタッフ間で共有している。	今年4月に事業開始した。理念「お客様の安らぎと暮らしを支える」は、実務者研修に参加した職員を中心に、全員で話し合って決めたものである。職員間で共有し、実践にむけて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、当施設空きスペースにて町内夏祭り等の催しを行っている。その際には利用者・職員も参加している。	町内会に加入し、事業所駐車場が町内の夏祭り(蛸で有名)の会場とされ、また、事業所が災害時の避難施設に指定されていることもあり、自然な形で地域の方々との交流が出来る。保育園の園児や大正琴、フラダンスのボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りの際など町内の方々が集まった際などに、認知症介護の実際を見ていただき、手を貸していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第4週金曜日に日程を設定し、町内会長や高齢介護課主幹等に参加していただき、意見やサービス向上に努めている。	会議には、利用者、家族、町内会長、市職員が参加し、利用者の状況や活動報告、ヒヤリハット事例報告等に意見を頂いている。町内会長から、地域の高齢者の情報が話されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	釜石市高齢介護福祉課に事務連絡等で顔を出した際や、市主催の研修会等に参加した際など、現況を報告・相談している。	市の担当者とは、書類を持参したり、メールで相談したりしている。地域包括支援センター主催の会議に出席した際には利用者に関する相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書におけるサービス内容にて身体拘束を行わない旨を具体的に盛っており、職員研修等でも重視している。	身体拘束廃止、権利擁護の外部研修に参加し、事業所内で勉強会を実施している。身体拘束を行わないケアを実践しており、言葉による拘束についても、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職場内研修を行っており、見過ごすことのないように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護推進員養成研修を受講し、職場内でも権利擁護について研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に居宅ケアマネからサービス内容を説明して頂き、契約の際改めて説明を行うとともに、不安や疑問点等あればその都度説明し、同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見を聞き取り、できる範囲で実行している。遠方の家族に対しては、電話や手紙にてやり取りしている。	ほとんどの家族が遠方に住んでおり、手紙・電話での連絡となっている。冬物の準備などは家族から任せられている。これまで運営に関しての意見は無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設有料老人ホームと連携し、日々の申し送りにて職員の意見や提案を聞き反映させている。	職員からは、現在は同法人グループホームのリフト車を使用しているが、今後利用者が定員(現在6名)になった場合に備えて、大きいリフト車が必要との意見が出ている。また、職員の提案で利用者にとって使用しやすいパットやおむつについても話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休日の受付や、職員の実績に応じた手当の支給等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験年数に応じた外部研修等に参加している。また、介護福祉士取得へ向け、実務者研修参加者には補助を出し、資格取得をしやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際など同業者と交流する機会がある。法人内でも盛んに交流を持っており、系列のグループホームと合同の敬老会を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前の相談の段階から、本人の状況把握に努め、看護師等も同行してご本人・ご家族の不安払拭に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人だけでなく、家族に対する安心感の提供に努めている。相談を重ねて信頼関係の構築を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望はあるがスタッフが揃わないために、他のサービス利用をお願いしている現状がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭きなどの軽作業をお願いしたり、スタッフと一緒にできることは一緒に作業して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が遠方に住んでいる利用者が多いが、定期的に状況を報告したり、不足している物がある際はご家族に準備して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎してできるだけ来所して頂けるよう勧め、協力頂いている。	ゴールデンウィーク、お盆には、自宅に帰る方もいる。遠方の家族は、帰省した際には毎日面会に来ている。1階と2階にいる利用者・職員とも馴染みの関係になっている。町内の夏祭りに参加した際には、知人と再開する機会ともなった。歌のボランティアとも新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の相性を見極めながら、テーブル配置等配慮し、利用者同士お互いが支えあえるように関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了者はまだ出ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を話しやすい環境づくりを行い、できるだけ意向を反映させている。	入居時のアセスメントや普段の会話・行動から、思いを把握するようにしている。また、家族から意向を伺うこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネよりサービス導入前の経過等説明を受け、引き継いでいる。また、利用者・家族からも情報を受けてできるだけこれまでの生活に近い暮らし方を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの変化等に応じて1日の過ごし方等工夫し、本人が安楽に生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を職員間で共有し、課題について検討している。また、家族の面会時などに状況説明と支援方法についても話をし、介護計画に反映させている。	4月からの入居で、短期目標は3か月後の見直しとし、長期目標は1年としている。利用者の変化や介護の在り方について、朝夕のミーティングや申し送りノートで共有し、会議で話し合い計画に反映させている。会議に参加できない職員に意見も聞いている。介護計画は、本人・家族に説明し了解を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の様子やちょっとした変化を記録へ記入し、職員間で共有している。また、その様子を日々の申し送りでも伝えて、切れ目ないサービス提供につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の有料老人ホームと連携し、互いに行き来をしており、イベントの際など合同で開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との連携や最寄りの個人医院の訪問を受けてインフルエンザの予防接種をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前と変わらずかかりつけ医に受診できるよう体制を整えている。また、症状に合わせて連絡・調整のうえ受診している。	協力医がかかりつけ医の方もおり、入居前のかかりつけ医を継続している。利用者の体調を管理している看護師が同行し、健康状態等を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐し、利用者の体調が悪かったり様子がおかしい際には、即座に報告・相談して受診につなげたり、かかりつけ医への相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院に足を運び、入院前後の様子など把握に努めており、状況に応じて対応を行っている。また、サマリー等のやりとりにて情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入居契約時に説明しており、事業所で可能な限り対応する旨を伝えている。また、状態変化に応じてその都度相談していく事も説明し、スタッフ間でも研修等を行い、体制を整えている。	職員は看取りの経験はあるが、看取りに関する指針はまだ作成していない。入居契約時に、事業所で可能な限り対応すること、医療が必要になった場合には病院へ紹介することを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防火訓練については、有料老人ホームと協力し合同で行っている。定期的に行い、発生時に備えて職員で意識付けしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設が地域の一次避難場所となっており、定期的に町内会主催の防災訓練を行っている。	事業所単独の避難訓練を実施している。3階(グループホーム)からの避難機器として、イーバックチェアを非常階段に設置しており、利用者は負担なく1回まで降りることができる。今年度中に全館合同の訓練を消防立会の下で実施する予定としている。事業所が地域の一時的避難場所となっており、町内の災害訓練にも参加している。震災後、発電機が寄付された。非常用物品は常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないよう、声掛けにも留意し対応している。	利用者呼び掛けるときは、利用者の希望により親しみをこめて「名字」で呼んだり、「名前」で呼んだりしているほか、トイレや入浴への声かけにおいて周りに注意し、丁寧な言葉遣いで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を話しやすい雰囲気づくりに努め、行事等への参加や着衣選び、外出先等自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の様子を見ながら活動を行っており、入浴機会や食事時間等その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフと一緒に買い物へ出かけたり、本人が使用していた化粧品がなくなった際は同じものを購入したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態については利用者の嚥下機能等みながら対応している。片付けなど利用者が率先して行っている。	キッチンには備えているが、調理は1階の厨房で専属の調理師が調理し、盛り付けされたものをワゴン車で運んでいる。献立は、様々な食材を用い、栄養バランスに配慮されている。利用者はそれぞれのペースに合わせ食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	効率よく水分補給できるよう好みを把握したり、定期的に声掛けをおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。また、口腔内に問題がある利用者については歯科受診し、口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を目指しており、看護師と協同し、排泄パターンの観察等を行っている。利用者一人一人の排泄パターンに応じて対応している。	自立の方もいるが、利用者の状態に合わせてリハビリパンツ、尿取りパット併用、おむつ等の様々な排泄用品を使用し、トイレでの排泄、自立を支援している。時間を見ながら声がけ誘導するとともに、車椅子の方が便意を感じたときそわそわする様子から、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄をチェックをするとともに、投薬にて排便コントロールを行っている利用者については、下剤の量等を看護師が工夫して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今までの生活習慣に合わせて、入浴の日程を組んでおり、また、有料老人ホーム内の大浴場を希望される利用者においては、そちらでの対応を行っている。	週2回の入浴を基本としている。時間は、午前か午後か本人の希望によって対応している。大浴場に入りたい利用者は、階下(有料老人ホーム)の大浴槽を利用している。同性介助を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ眠剤に頼ることのないよう、活動量を増やし、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が多い利用者や、服薬拒否がみられる利用者などについては、薬局薬剤師による居宅療養管理指導において利用者への支援や職員へ指導していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の時間にはコーヒーが好きな方にはコーヒーを出したり、今までの生活習慣に合わせて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出レクを行っている。また、本人の希望に沿って行きたいところへ出かけられるよう支援している。	天気のよい日は、事業所の周りを散歩している。日向ダムの紅葉、近所の体育館のお花見、近くのスーパーと、ドライブを楽しんでいる。外出への意欲が低下してきているように感じている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を金庫にて管理し、利用者の必要に応じて本人へ渡したり、必要物品の購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りや外の景色などを見ることで季節感を感じてもらっている。	3階(グループホーム)の共用の広いホールから、目の前の山肌の紅葉など四季を楽しんでいる。改装して間がないため綺麗で広々としたスペースには、加湿器、エアコン、ソファ、食卓、テレビが設置され、壁には、(工夫され見ごたえのある)紅葉と銀杏の作品が飾られており、利用者はゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟続きの有料老人ホームには小上りもあり、将棋をしたり、空いていれば一人で過ごすことができるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものや写真を飾ったり、なじみのものを使用している。	トイレ付きの部屋5室、換気扇、洗面ユニット、クローゼット、電動ベッドは備え付けである。小ダンス、椅子、テレビ、冷蔵庫、遺影、位牌、寝具等を持ち込んでいる。週1回、リネン交換と掃除がなされ、清潔で安心な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所が備え付けてある居室があり、可能な限りセルフケアが行えるような作りになっている。		